

ささえ愛

VOL. 039

発行 令和3年12月

発行元 坂井市福祉委員幹事会
(坂井市社会福祉協議会)

「ささえ愛」は、あなたの地域で活動する福祉委員に関する情報紙です

11/18(木)

代表委員研修会を開催しました

テーマ: 私たちができる
防災について学ぶ

坂井市安全対策課の福澤氏をお招きし、災害(今回は主に水害のこと)の実情や備え方、避難所での要援護者への支援の必要性など、「一人一人が取り組む防災」について教えていただきました。



■ 講演後はグループワークを行い、2つのテーマについて話し合いました！

① 個人(自助)として既に実施していること、していきたいこと

『家族で、もしもの時の待ち合わせ場所を決めている』や『阪神・淡路大震災以降、非常持出袋を家族分購入したが、2階に置きっぱなし。出口に置いておく』、『ハザードマップを改めて確認しておく』などが話題に挙げられていました。

② 福祉委員(共助)としてこれから実施していきたいこと

『福祉マップづくりを生かし、災害時の連携方法を確認したい』や『災害時こそ向こう三軒両隣の関係が大事。区長と一緒に気がかりな人の隣人へ協力をお願いをしていきたい』、『サロンなどを実施し、SOSを出してもらえようような関係性を築いていきたい』などが話題に挙げられていました。

check

自分の地区でも防災研修会を実施したい方は…



坂井市役所 安全対策課

お問い合わせ: 0776-50-3525 住所: 坂井市坂井町下新庄 1-1



ある日の様子

坂井町 大関地区 伊藤 敏幸

先日、民生委員、区長会長、福祉委員(2 期以上の方)にお集まりいただき意見交換会を行いました。令和2年からの福祉委員の現任期を同じ人が引き継いだ率(「継続率」)は、市平均で37.2%、わが大関地区はなんと27.3%! 集落の事情もいろいろあると思いますが、区長さんに改めて委員の継続をお願いしなければなりません。

当日はいろいろな意見が出ましたが、災害時(災害発生が予想されるときを含め)の見守り対象者に対する役割分担が明らかではないという意見がありました。そこで、ふくしの会として、災害時の安否確認などについて研修会を行うことになりました。まず、避難行動等について市から説明を受け、そのうえで、区ごとに役割分担について話し合ってもらおうこととしました。災害時には自分自身の安全確保が最優先であることは言うまでもありませんが、平常時に加え、非常時の共助についても認識していただく機会になればと思っています。

きいてきたざー

三国町 1の部地区 北澤 路

新型コロナウイルス感染状況が落ち着きを見せ始めた11月、ふくしの会でサロンを再開しました。数か月間の休止の後、急遽再開を決めたので、講師の方をお呼びするには時間がなく、内容に頭を悩ませましたが、今回は、簡単なゲームにしよう、トランプの後、三国かるたをすることにしました。準備期間が短く、参加される方が喜んでくれるか心配でしたが、いざ始めてみると、最初のトランプで大盛り上がり! 結局、三国かるたは次回のお楽しみ…となるほど、皆さん本当に楽しんで帰られました。今までは、サロンというと、何か楽しいことやためになることをしないと…と思っていましたが、難しいことはしなくても、こんなに楽しんでもらえるのだと、少し気持ちが楽になりました。これからも、気軽にできて、気軽に来れるサロンができればいいなと思います。

ここで一言

丸岡町 竹田地区 藤波 英司

昨年は新型コロナウイルスの感染症の流行により、それまで普通に行っていた総会や民生委員との連絡会、講演会などの事業が縮小または中止ということになりました。それでも、高齢者宅への訪問は各地区の福祉委員らで続けてきました。最近では県内の感染の状況が落ち着いてきて、ようやく福祉マップ作りが完了したところです。今後の活動については、これまでどおり感染を予防しつつ、安全且つ安心して活動が続けられるように配慮したいと考えています。そこで、今後実施予定の講習会については、オンラインを活用したハイブリッド型(会場でも聴講可能)で開催する予定です。福祉活動も「新しい生活様式」の中で継続できるのか、挑戦は続きます。

各支部連絡先

- 本部 TEL: 68-5070
- みくに支部 TEL: 82-1170
- まるおか支部 TEL: 68-5060
- はるえ支部 TEL: 51-4545
- さかい支部 TEL: 67-0699

当情報紙は坂井市社協ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.sakaicityshakyo.jp/>



編集後記

私の父は、12月で95歳。昨年、震度5弱の地震、大雪の時など地域の方が一声かけてくださり、父も安心した様子でした。「向こう三軒両隣」という言葉も、隣人の入れ替わりの激しい都会では聞きなじみのない言葉になりつつあるのではないかと思います。しかし、私の地域では、どんなに近い身内よりも、いざという時は、それ以上に、ご近所の方が大きな力となることをつくづく感じました。福祉委員としては、常に高齢者の方を気かけ、近所の方とコミュニケーションをとっていくことが大事だと思います。個人情報保護が大きな壁になる時も「向こう三軒両隣」の話聞けば、高齢者の方の情報が分かりますし、みんなで情報交換をしながらみんなで地域を見守っていく雰囲気づくりを行っていくことで、安心して住み続けられる地域になっていけるのだと思います。

春江町 東部地区 高橋 英次